

第2号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）
事業計画（変更計画）書

平成25年6月30日

1 実施主体

(1) NPO法人等が申請する場合

NPO法人等 (実施主体)	種別及び名称	読み聞かせボランティア交流会「ヒッポ」		
	住所	東京都大田区南馬込 1-29-8		
NPO法人等 (連携先)	種別及び名称		担当者名	
	住所		電話番号	

(2) 協議体が申請する場合

協議体の名称				
代表構成員の団体名及び代表者職氏名				
構成 団体	都道府県・市区町村名及び部課名		事業における役割	
	民間非営利組織の種別・名称		事業における役割	
	住所		電話番号	

2 事業概要

事業名	絵本でつなぐ福島子育てネットワーク再生事業 IN 東京		
総事業費	4,586,400	円（うち希望補助金額	3,526,000 円）
事業の実施期間	平成 25 年 7 月 15 日から平成 25 年 3 月 31 日まで		

注：補助対象期間は補助金の交付決定日からとなります。

3 事業計画

<p>地域における課題と事業の目的</p>	<p>東京都内に避難している福島県の避難者は現在、約 7,000 人と聞いている。未だに、福島から避難していることを知られることを懸念し、悩みを抱えながら生活しており、福島へ帰還してもその後も親子でひきこもり状態になっている避難者がいることを見聞きました。</p> <p>活動の拠点としている大田区民はこのような福島の現状を残念ながら把握しているとは言いがたい。ましてや、都内全域と考えた場合、そこはもっと希薄になっていると思われる。都内で避難者サロンも開設されているが、もともと子育て世代にとって様々なストレスが発生し、社会と孤立することが多々ある状況の中、子育て世代にとっては踏み出すことに躊躇してしまう時もあるようだ。これらの地域の課題を解消し、継続した支援を行うために、サロンを 2ヶ所で開設し、その特徴は絵本に特化して、避難者が構えやすい参加しやすいフラットな場を提供する。また、福島へ帰還した際の避難していたことへの罪悪感の緩和・心のケア、地域貢献や今後の生きがいをづくりのために、子どもたちの健全育成に欠かせない絵本と児童書を活用した読みきかせ講座や学校図書整備事業の講座をサロンにて開催し、人材育成を行う。被災地支援と福島と都内の子育て世代との交流を目的としたイベントも開催する。</p>
<p>事業の目標</p>	<p>継続した復興支援と被災者支援のために、福島と大田のネットワークを形成し、福島での実践活動を通して、子どもの健全育成、地域、社会の文化・福祉の発展に寄与することを目標とする。</p>
<p>事業内容</p>	<p>■サロンの運営(2ヶ所) 25年8月より 26年3月まで 週4回</p> <p>■読みきかせ講座 サロンにて事業内で14回</p> <p>■絵本作家によるイベント 期間内1回</p> <p>■福島・東京のママたち主体のイベント 期間内1回</p>
<p>見込まれる成果</p>	<p>1.本県の復興支援・被災者支援の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ■東京に避難している被災者の心のケア、子育て支援、人材育成、福島に帰還後の支援 ■福島での子育て支援、人材育成支援 ■福島と東京のネットワークづくり形成と再生 <hr/> <p>2.取組実施主体の運営力強化の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ■絵本サロン運営による避難者支援(心のケア・人材育成) ■東京都内子育て関係者への情報発信 ■被災地支援、交流・ネットワーク作りを目的としたイベント開催

<p>事業スケジュール</p>	<p>■絵本サロン →助成決定後、予定地の契約(2ヶ所)。夏休みより開設する</p> <p>■読み聞かせ講座、 → 図書ボランティア講座 事業内で 14 回開催、内容は基本、スキルアップとボランティアに合わせて開催する</p> <p>■ママイベント(子どもイベント) →福島の子育て世代のママたちとともに実行委員会を立ち上げ、ママたちが主体的に参加できるイベントを企画し1回行う。 同時に絵本作家によるイベントも実施 →講師の絵本作家村上康成氏と、子どもの心のケアのワークショップを 1 回行う 11月予定</p>
<p>事業実施体制</p>	<p>実施責任者 読み聞かせボランティア交流会「ヒッポ」会長近藤真奈美</p> <p>実務担当者 絵本サロン、講座、研修会、イベントの実施 読み聞かせボランティア交流会「ヒッポ」会長近藤真奈美 サロン運営サポート 一般社団法人地球の楽好東京支部 都内企業ボランティアによるチーム</p>
<p>事業終了後の展開</p>	<p>事業終了後も継続的な運営を実施していくために、事業活動内に周知活動も行い、支援者を募り大田区地域としての運営を計画していく。</p>
<p>事業の先進性・普及性</p>	<p>都内での避難者サロンは多々あるが、子どもと一緒に参加できるものは少ないことと、避難していることをキーワードとするのではなく、「子ども」「絵本」を介しての事業は他に類がない。また、どの地域にもある公立図書館、学校図書館などでボランティアや有償でも活動もできる講座を開設していくことで帰還した場合の子育て世代の雇用促進、社会参画へとも繋がる。</p>

特記事項	<p>「ヒッポ」は、東京大田区では、子どもの読書推進活動団体として先駆的に活動しており、読書ボランティア育成を目的に 2009 年より様々な講座・講演会を年 6 回ほど開催しているまた、2011 年より学校図書館整備事業を自主事業として展開し、学校からの依頼を受け、これまでに 7 校の公立小学校の整備を行っている。このような活動を継続していることから、50 校の小学校、図書館、児童館で活動する多くの団体とネットワークも形成しています。</p> <p>大田区の助成事業には 4 年間採択され、事業内容も拡大、組織運営も民間非営利組織として安定して行っています。</p> <p>「ヒッポ」の活動内容は子どもと本に関わることから、震災後は宮城県的一般社団法人「地球の楽好」と繋がり、絵本を被災地に送る支援活動、宮城・福島の被災地での支援活動、被災地の情報掲載と子育て支援を目的に「おおた子ども情報らいぶらりー」を 34000 部発行しています。</p> <p>また、「りすこ」おおた復興支援活動団体協議会にも所属しており、区内の支援団体とも連携しています。</p> <p>これまでヒッポの HP にアクセスする方も多く絵本、読書というくくりによる支援事業の必要性を強く感じ今回の申請となりました。同じ母親たちとして、人との繋がりが希薄である都内において、子育てをしてきた私たちだからこそ避難者の方々が都内でひとつにつながっていくことの重要性を深く思っております。</p>
------	--

※用紙が足りない場合は、適宜追加してください。

※地域社会にとっての必要性（ニーズ）について確認できる資料（新聞の切り抜きやアンケート結果等）がある場合は、A4用紙1枚（両面可）に限り添付できます。

第3号様式 (第4条関係)

地域づくり総合支援事業 (ふるさと・きずな維持・再生支援事業)
収支予算書

申請者名 読み聞かせボランティア交流会「ヒッポ」

【収入の部】

(単位：千円)

区 分	平成 年度 予 算 額	明 細
ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金	3526	
自己資金 (負担者名)	750	読み聞かせボランティア交流会「ヒッポ」 会長近藤真奈美
事業収入	50	絵本作家イベント避難者以外参加者チケット代 500×100名
	60	ママイベント避難者以外出展者料 3000×20 ブース
	200	企業からのイベント・サロン運営寄付金
収入合計	4586	

【支出の部】

(単位：千円)

区 分	平成 年度 予 算 額	明 細
人件費 (共済費を含む)	1600	サロン運営人件費 100×2名×8ヶ月 (2名 9ヶ月分) 差替入依頼中
報償費	186	イベント講師謝礼 27,9×2回、講座講師謝礼 9,3×14回、
旅費	0	
需用費		
消耗品費	101	絵本修理品など
燃料費	0	
印刷製本費	600	サロンを含めた地域子育て情報誌印刷製本費 200×3回
役務費		
通信運搬費	99	
手数料		

保険料		
使用料及び賃借料	2000	サロン賃貸料 200(2ヶ所)×9ヶ月、 イベント会場使用料 100×2回
委託料	0	
支出合計	4586	

注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。

注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。
なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。

注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の使途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、使途の区分が分かる資料を添付すること。